

# 褥創に消毒薬を使うと治りが悪くなるのはなぜ？

**褥創**のケアにおいて最も重要なことは感染を管理（防止）することです。したがって、従来は、創部を消毒し、乾燥させる治療が主体でした。しかし、漫然と消毒し、乾燥させるのでは効果的でないことがわかってきました。

今日の褥創ケアは、感染の有無にかかわらず、消毒薬は使用せずに生理食塩水や水道水で洗浄するのが一般的です。その理由は、消毒薬はたとえ希釈した低濃度のものであっても、創傷の**治癒過程**で大切な**マクロファージ**や**線維芽細胞**を傷害してしまうからです（消毒薬による組織傷害性といいます）。

消毒薬による創閉鎖の遅延に関する動物実験によれば、消毒薬で洗った群は、水道水で洗った群や生理食塩水で洗った群に比べて、有意に創閉鎖の遅延がみられました<sup>18)</sup> (図)。このほかにも、消毒薬による組織傷害性に関する基礎的・臨床的研究が多数報告されています。

異物や壊死組織があり、そこに細菌が侵入すると感染が生じる——これが創感染の一般的なメカニズムです。創形成のメカニズムから考えても、除去すべきは、細菌ではなく感染源となる異物や壊死組織なのです<sup>19)</sup>。

感染創には消毒薬の効果を低下させる有機物（細菌、血液、異物、壊死組織）

が多量に存在するため、消毒薬の殺菌作用は速やかに失われます。そのうえ、表面を消毒しても、組織内の感染病巣に効果が及ぶとは考えられず、深部に存在する細菌には効力がないのです。

ところが、殺菌力を失った消毒薬であっても、消毒薬そのものと添加されている**界面活性剤**の組織傷害性は有効なため、傷害性だけは失われません<sup>20)</sup>。

AHRG（米国厚生省公衆衛生局）のガイドラインでは、あらゆる消毒薬を創面に使用せず、生理食塩水や水道水、蒸留水による徹底した洗浄を行うべきだとしています<sup>21)</sup>。

これらのことから、感染創に対しては、**デブリードマン**や生理食塩水、水道水による徹底した洗浄を行うべきであり、消毒薬を使用すべきでないといえます。

褥創ケアのその他の注意点は以下の4つです。①体位変換（圧迫を取り除く有効な体圧分散を意味します。通常2時間ごとに行います）、②減圧寝具の使用、③スキンケア、④栄養状態の管理<sup>22)</sup>。

\*

ここでは「褥瘡」ではなく「褥創」としました。「瘡」は「かさぶた」の意をもち、治癒を遅らせる創の乾燥をイメージさせるためです。因幡の白ウサギの故事を思い出してください。

### ●創傷の治癒過程……

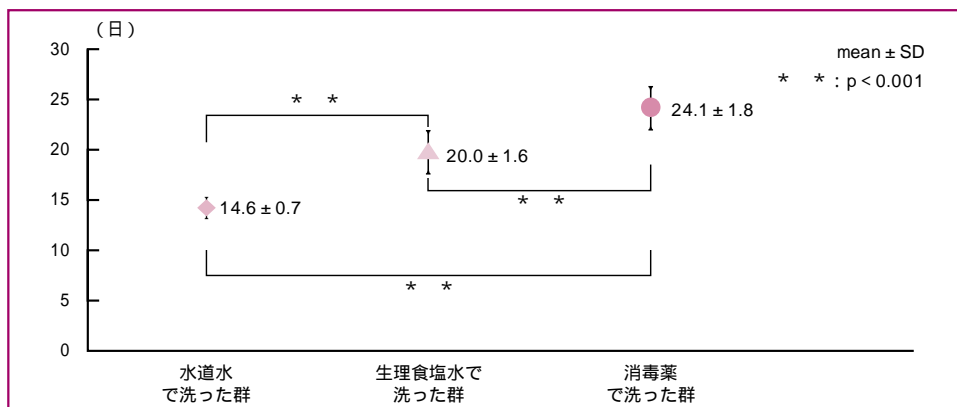
創部には線維芽細胞、白血球、マクロファージ、血小板といった様々な細胞が遊在する。創傷の治癒は、これらの細胞の相互連関のもとで進む。消毒薬が示す毒性は細菌のみならず、こうした細胞の活動性にも大きな影響を及ぼす。

### ●デブリードマン……

感染を防止し治癒を促進するために、潰瘍、不良肉芽や壊死組織を切除する外科処置を指す。外傷、火傷や褥創が対象となる。

### ●因幡の白ウサギ……

昔々、因幡の国に住む白ウサギが大洪水で沖の島へ流されてしまう。白ウサギはワニザメをだましてこちらの岸まで渡ろうとする。だが、もう少しで岸に着くというとき、だまされたことを知ったワニザメに全身の毛をむしり取られてしまう。丸裸の白ウサギが砂浜で痛みに泣いていると、通りかかった大勢の神さまに「海水で洗い、風に当たってよく乾かしなさい」と言われる。そのとおりにすると、白ウサギの症状はますます悪化してしまう。続いて通りかかった大国主命（オオクニヌシノミコト）は、「河口に行って真水で身を洗い、蒲（ガマ）の穂をつけなさい」とアドバイスする。そのとおりにすると、どんどん元の白毛に戻ったそう。この故事は、塩水で洗い乾燥させてカサブタをつくるより、水で洗って湿度を保つことの有効性を示した世界最初の対照実験と言えそうだ。



図●創閉鎖までの所要日数  
(引用・参考文献2)より引用)